

# 議会運営委員会 行政視察報告書

視察年月日 平成30年11月7日（水）～9日（金）

## 視 察 地

鹿児島県 始良市 「議会だよりの編集について」  
熊本県 熊本市 「災害時の議会对応について」  
「フェイスブックを活用した議会情報の発信について」  
福岡県 飯塚市 「タブレット端末の活用について」

## 【始良市】

### （視察地選定理由）

議会だよりは、私たちの議会活動を市民に分かりやすく伝えるためのツールとして、重要な役割があります。議会だよりの更なる充実を図るために、始良市議会の取り組みを視察し、今後の紙面づくりに生かすべく、選定した。

### （事業概要）

始良市議会では、議会改革基本条例に基づき、平成26年度より広報広聴特別委員会を設置されている。広報広聴特別委員会は、議長を除く23名の議員で構成され、広報班と広聴班に分かれ、広報広聴活動の充実に取り組んでいる。広聴班は議会報告会の開催を担当し、議会だよりは広報班12名が議会だよりを作成している。

始良市は、平成22年に始良町・加治木町・蒲生町の3町の合併により誕生した市であるが、旧始良町の町議会広報が、町村議会議長会広報コンクールにおいて日本一に輝いたことにより、始良市議会だよりの作成においても、旧始良町の広報紙をベースに作成されている。

基本姿勢	監視機能・政策提言機能の充実 市民の参画意識を呼びおこす
仕 様	A4判フルカラー24ページ（年4回）
印刷部数	28,500部
契約方法	単価契約 （1ページ1.2円／1冊28.8円）
配布方法	自治会加入世帯への配布（自治体加入率73%）
編集方針	読みたくなる紙面づくり ◎早い発行（30日程度）◎公平、性格、客観性 ◎一般質問は15行程度 など、8項目を定める

始良市議会だよりの特徴として、次の4項目が挙げられる。

- ① 一般質問は、全ページの半分以下  
質問者が多いので、一般質問報告書になってしまうことを避けるため
- ② あいら看板方式  
質問のテーマと内容、答弁を一言で表現する
- ③ 質問は2問、300文字程度  
質問当日に配布される答弁書をもとに、質問者が編集する
- ④ テーマに沿った写真を掲載  
質問者が必ず写真を用意して掲載する

以上のような基本方針を議員全員が共通認識として持ち、広報班が台割表を作成し、各ページや特集ごとに担当者が決められ、紙面を作成している。広報班は、原稿が提出されてから発行までの間に、5回もの会議を開き編集作業にあたっている。議会事務局職員は、あくまでも校正の助言にとどめ、議会広報が議会改革の柱であるという考えのもと、議員による手作りの紙面づくりを心掛けている。

(感想)

藤岡市議会における議会だよりの編集については、議会運営委員会が兼任し、事務局職員にもサポートしてもらいながら、編集作業にあたっている。また、紙面の大部分が一般質問の報告となっている。今後、より市民にとってわかりやすい議会活動を伝えていくためにも、紙面の構成等についても研究が必要であると考えている。議会だよりにだけでなく、「議会広報の充実」という観点から、総合的に検討していくことが必要と感じた。



始良市議会事務局より説明を受ける



始良市役所入口前

## 【熊本市】

### （視察地選定理由）

近年では、地震や風水害等の自然災害が多発しており、市民の関心も高まっている。災害発生時には、市民の安全が第一であるが、その後の復旧計画において、市民からの要望が多く寄せられる現状がある。そうした中において、災害時の議会としての対応を検討すべく、選定した。

また、議会活動の広報手段として、現在 SNS の活用が検討されている中、その効果についても合わせて調査したく、選定した。

### （事業概要）

#### <災害時の議会対応について>

平成28年4月、最大震度7を超える熊本地震が発生し、熊本県を中心に九州地方が大きな被害に見舞われた。熊本市の生活がすべてストップしてしまったと言っても過言でないほどの甚大な被害であり、被害総額は約1兆6000億円を超えるものであった。このような状況において、当然のごとく市役所は混乱し、その対応に追われる業務が続いていた。議会事務局職員も、例外なく避難所運営等の業務に従事していた。

この間、議会・議員への対応としては、各議員の安否確認の後は、災害対策本部からの情報を各議員へ発信する程度であった。また、各議員からの要望は事務局で取りまとめ、関係課に伝えることとした。

復旧・復興計画が提示され始めてからは、それぞれ議決が必要な案件が提示されるが、災害復旧作業を最優先とし、議会の会期の短縮などの調整がなされた。また、議会単独の対策として、県や国への要望活動のほか、行政視察を縮小するなど経費削減に努めている。さらに、議会としても執行部との共通認識を持ち、災害時に即応できる体制の整備を図ることを目的に、「熊本市議会災害対策会議」の設置要綱を制定した。

#### <フェイスブックを活用した議会情報の発信について>

熊本市議会では、平成24年に市議会のホームページをリニューアルし、その機会に議会情報の効果的な情報発信を行う手段として、フェイスブックを活用して、議会情報の発信を行っている。発信を開始する際に、SNS 特有の混乱やトラブルを避けるために、運用にあたってのガイドラインを設け、この要綱に従って発信している。

フェイスブックの編集や管理人は議会事務局職員が担い、運用責任者を議会事務局長が務めている。基本的に、議員個人や委員会等が発信をすることはなく、投稿した情報に対してのコメントについては、返信していない。

投稿頻度は、約3日に1回程度であり、議会会期中であれば、ほぼ毎日行っている。特に、休会中の活動については積極的に発信するように努めている。

フェイスブック活用の効果としては、新たな層への情報提供ができるようになり、ホームページの更新情報と連動することにより、ホームページの閲覧件数の増加（導入前15万件、導入後25万件）につながっている。現在のフォロワーは341人である。

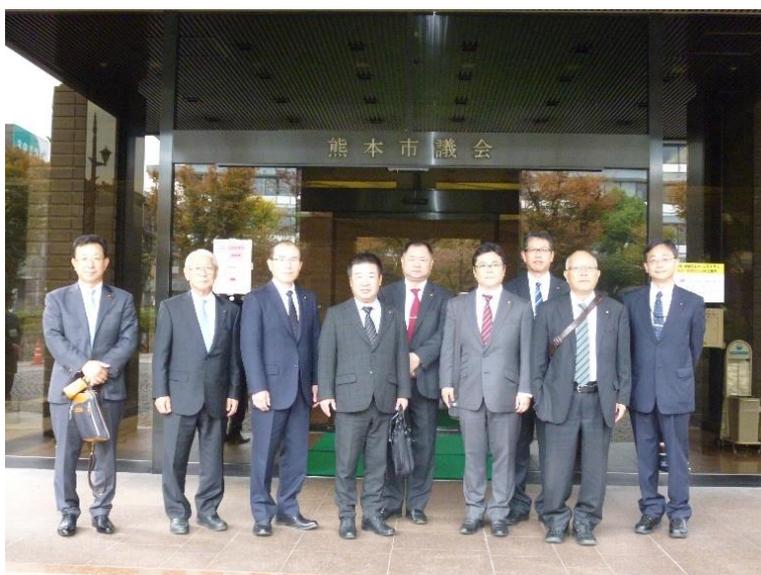
(感想)

藤岡市において、災害が発生し災害対策本部が設置された際には、議会事務局職員もそれぞれ災害対策の任務にあたる事となる。このような状況の中では、藤岡市議会として議会独自の災害対策部門を設置することには、執行部との協議が必要となり、今後の更なる調査研究が必要であると感じた。しかし、災害発生時の議員の対応について、情報の統一化や混乱を避けるため、またスムーズな災害復旧作業を行う上でも、一定のルールを定めていくことは検討すべき事案だと感じた。

議会の広報活動における、SNSを活用することは、複数の広報手段を持つという意味においては、意義あるものであると思う。しかしながら、利用者数の少なさや市民の関心度については慎重に検討すべきであるとも感じた。当市における、フェイスブック・ツイッターの運用状況を調査し、今後の検討課題とすべきであると感じた。



熊本市議会事務局より説明を受ける



熊本市議会入口前

## 【飯塚市】

### (視察地選定理由)

現在、各市議会においては、多くの会議で配布される資料について、その費用についての対応が全国的な課題となっている。飯塚市では、タブレット端末を導入し、会議のペーパーレス化を進めると同時に議員活動の活性化につなげるべく、取り組んでいる。

その取り組み方法と効果について視察したく、選定した。

### (事業概要)

飯塚市議会では、平成28年よりタブレット端末導入についての検討を始め、各会議での協議や先進地視察及び使用方法についての研修会を重ね、平成29年9月より試行的に開始し、平成30年2月より完全運用を始めている。また、この間に、タブレット端末の使用基準についても定めている。

タブレット端末の導入する際に期待される効果としては、コスト面として冊子等の印刷物の削減で、年間約350万円。議員活動を活性化する効果として、資料閲覧の利便性向上や情報が一斉送信されることによる対応の迅速化などが目的として挙げられていた。そのため、各端末は議員に貸与されており、本会議だけでなく日常の議員活動にも積極的に利用されている。

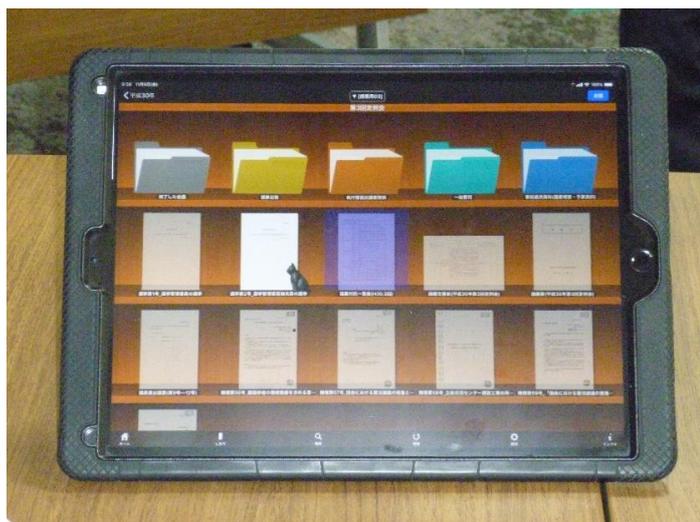
飯塚市議会での特徴として、議員のネットワークへのアクセス方法は、市役所職員とは異なるポイントからアクセスすることができ、また議会棟にWi-Fi環境を構築することで、各議員が不便なく利用できるよう議員専用のネットワーク環境を整備している。

この事業にかかる経費としては、環境整備を含めた導入までの費用として、約260万円(約半年間)、その後の運用費用としては、年間約300万円が計上されており、紙で資料配布されていた頃よりは若干のコスト削減につながっている。なお、主なコストはタブレット端末通信料、文書管理関係アプリの基本使用料、Wi-Fi使用料等となっている。

導入後の課題としては、端末の機能が更新されることにより、継続して研修が必要になるが、議員の習熟度が異なることにより、開催方法が困難なことが挙げられている。また、上達した議員の中には、他の有料ソフトの利用を望む声があるが、その取り扱いについての検討が必要とされている。

### (感想)

議会におけるペーパーレス化は、全国的にも徐々にではあるが進められている。こうした事の取り組みは、まだ当市議会では喫緊の検討課題に挙げられてはいないが、今後の各市議会の状況を見定めながら、調査研究を進めるべき案件であると感じた。なお、検討を重ね、ペーパーレス化に取り組む際には、庁舎内のネットワーク環境の構築も合わせて要望すべきであると感じた。



飯塚市議会タブレット端末



飯塚市議会議場内

以上の通り、報告致します。

平成31年3月21日

#### 議会運営委員会

委員長 松村晋之

副委員長 青木貴俊

委員 大久保協城

橋本新一

窪田行隆

冬木一俊

針谷賢一

議長 反町清

副議長 野口靖